

令和7年度特色ある学校づくり推進事業報告書

学校番号（120） 学校名 豊田市立井郷中学校

1 テーマ

自主的・主体的な活動を通し、豊かで温かな心をもつ生徒の育成
～『WE LOVE いさと活動』を通して～

2 ねらい

本校は、ボランティア活動に力を入れており、ボランティア活動が学校づくりの中核となっている。また、平成28年度から続いている「WE LOVE いさと」活動を通して、生徒の自主的・主体的な取組を目指し、学校内や校区内でのボランティアを考えて実行したり、地域の方々と意見交流を交わす中で、地域で必要なボランティアを考えたりする機会としてきた。この活動は、本校にとって生徒の心の成長につながる大切なものである。

これまでの活動としては、学校内では、配膳台磨きボランティアや落ち葉拾いボランティア、地域では、地域清掃ボランティアや成人式用花植ボランティア、福祉活動ボランティアを行ってきた。令和7年度は、自分たちで課題を見つけるとともに、活動範囲を広く地域に広げて取り組む予定である。活動内容は、毎年、生徒会執行部を中心として計画・立案していくので、若干異なるが、これらの活動を通して、井郷中学校を愛する心と井郷地域を愛する心の育成を目指している点においては毎年変わらない。

また、ボランティア活動は、企画、運営、反省、活動内容の共有化に至るまで、生徒主体の自主的な活動であるほど、生徒の豊かで温かな心の育成につながるものとする。

3 活動内容

○いさと中学校を愛する活動として

- ・新入生歓迎会におけるいじめ撲滅を再認識するための活動（イエローリボンの贈呈と意義の伝達）
- ・落ち葉拾い等環境整備などのボランティア活動
- ・地域やSDGsをテーマとした総合的な学習の展開

○いさと地域を愛する活動として

- ・学区内にある公園や運動公園内の遊具の点検や清掃活動
- ・校内外での行事を花で飾るためのフラワーボランティア活動
- ・通学路のゴミ拾い及び清掃活動

- ・交流館でのイベント（「ふれあい祭り」など）に積極的にボランティアとして参加するといった地域との協働活動
- ・地域各施設（福祉施設・交流館・こども園など）との交流活動

4 成果と課題

今年度の成果

《学校評価（保護者アンケート）より》

- * 「特色ある学校づくり推進事業が児童生徒の教育活動に効果的であるとともに、事業の計画や成果が広く理解されている」

⇒令和7年度平均 3.0 ▲目標値 3.2 を未達成

《学校自己評価より》

- * 「学校教育活動全体を通じて、体験活動やボランティア活動を取り入れ、心の教育を充実させている」

⇒令和7年度平均 3.3 ○目標値 3.0 を達成

- * 「学級活動、生徒会活動、学校行事で、子どもが生き生きと活動できるように工夫している」

⇒令和7年度平均 3.3 ○目標値 3.1 を達成

①「WE LOVE いさと（全校スポGOMI）」

3年生が総合的な学習の授業で「地域、学校をよりよくするためにできること」を話し合った。そして、昨年度の3年生が実施したスポGOMIを本年度も行うことになった。初めに3年生のみでスポGOMIに取り組み、その経験・感想を活かして全校スポGOMIを行った。1・2年生と縦割りのグループを作り、アイスブレイク、ルール説明、作戦会議を経て本番を迎えた。各グループで決めた目的地に向けて歩く中でゴミを拾い、100kg以上の可燃ごみや空き缶を拾うことができた。生徒たちは「思っていたよりもゴミが少なかった。日頃から清掃活動をしてきている方々のおかげだと思う」、「ゴミは隠されるように捨ててあった。」など、地域の方々への感謝の気持ちやゴミを捨てる人への怒りを感じていた。

②朝ボランティア（朝清掃・あいさつ運動）

生徒会役員の生徒を中心に、登校の時間に朝清掃やあいさつ運動を行った。特に本校は落ち葉がひどく、秋から冬にかけては下校前にきれいにしても翌朝には足の踏み場もないほどの状態になってしまう。生徒会役員が呼びかけることで、100名以上の生徒が朝清掃に参加し、校内をきれいにしてくれた。

③交流館イベントへの参加

今年度も、夏休みの盆踊りやふれあい祭り等のイベント時に、生徒たちがボランティアとして参加した。地域ぐるみで井郷中学校の生徒の育成に力をかしてくださり、ありがたく思う。ここで培った力を他の場面でもどんどん発揮し、社会性や自己有用感を高め、より心豊かな人間性の育成につなげたい。

今後の課題

①イエローリボン活動の情宣

本校は、いじめ撲滅のために新入生歓迎会で在校生から新入生にイエローリボンの贈呈を行っている。生徒は制服の胸元にイエローリボンをつけ、いじめのない学校づくりに努めているが、保護者への情宣が足りず、一部理解を得られていない保護者がみえた。来年度はイエローリボン活動を紹介する機会を増やし、保護者への理解も深めていきたい。

②積極的な地域との交流

本年度は、学校評価（保護者アンケート）の「特色ある学校づくり推進事業が児童生徒の教育活動に効果的であるとともに、事業の計画や成果が広く理解されている」の平均値が3.0と目標の3.2を下回ってしまった。取組としては「We LOVE いさと活動」「イエローリボン」「朝ボランティア」「ふれあい祭りへの参加」「園芸委員によるフラワーボランティア」など十分に行っており、生徒たちの人間性の成長は十分に感じられている。しかし、本年度は、地域の方々と意見を交わしたり、交流したりする場面をあまり作ることができなかった。これが、アンケート結果の低下の要因と考えられるので来年度以降は、生徒たちが地域の方々と関わる場面を増やしていきたい。

5 保護者・地域への情報発信の取組実績

- ・ホームページを随時更新し、保護者や地域の方々へ情報発信を行った。
- ・「学校だより」や「学年通信」を通して、各学年の活動の様子を紹介した。
- ・交流館の電子掲示板で活動の様子を掲示してもらい、地域への情報発信を行った。